

**インパクトコンソーシアム
第2回 運営委員会資料
(2024年4月10日)**

事務局

(議事)

- 1. コンソーシアムの組織について**
- 2. 規約案について**

(報告)

- 1. コンソーシアムの会員の状況について**
- 2. 第1回総会・インパクトフォーラムの準備状況について**
- 3. 分科会座長・副座長挨拶**

コンソーシアムの組織について

- コンソーシアムに対し有識者等がアドバイスを行う組織を、それぞれの目的に応じて「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つに分けて実効的な運営を行う。

総会

年1回程度

- 事業方針と運営の基本的事項を決定
- 役員（会長・副会長）の選任

※5月14日には、コンソーシアム総会と併せ、内外の有識者等によるフォーラムを開催
※状況に応じ、幅広いメンバーが参加するアドホックのオンラインセッション等も検討
※若年層の視点を取り入れるため、若年層による議論や意見発信を行う場も検討

運営委員会

年4回程度

- 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

年1回程度

国内の地域課題を含む
コンソーシアムの運営状況
等に助言

グローバルアドバイザリーパネル

都度開催

海外での取り組みを紹介し、
日本における活動の方向性
についてディスカッション

分科会

- 会員に分科会メンバーを広く募集
- 効果的な議論推進のため、議論を取りまとめる「座長」、座長を補佐し資料等の集約を中心的に行う「副座長」、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定

オーガナイズングデスク

分科会に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線感で民間の議論を喚起

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- 国が支援を行いつつ、各機能を委託（会議運営、イベント運営、ホームページ作成等）

運営委員会

趣旨

- 運営委員会は、コンソーシアムの事業計画及び事業報告、予算及び決算、分科会の設置その他のコンソーシアムの運営に関する重要事項を審議し、決定する組織であり、インパクトの裾野拡大を図る観点から、各委員は多様な参加者を代表するバランスのとれた構成とする。
- 運営委員会には分科会の座長・副座長も参加して分科会の進捗を報告することで、各分科会の状況を確認しながら、分科会相互の連携や、委員の所属する業界との連携のあり方等についても議論する。

運営概要

- 頻度・時間…四半期毎、1時間半程度
- 形式…対面とオンラインのハイブリッド開催
- 参加者…会長・副会長（※）、運営委員、座長・副座長（各分科会1名以上）、アドバイザー委員長

運営委員候補者

- 日本経済団体連合会本部長 正木 義久
- 経済同友会（調整中）
- 日本商工会議所 理事・企画調査部長 五十嵐 克也
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG国内諮問委員会事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎

※コンソーシアム会長・副会長

会長

- 水口 剛 高崎経済大学 学長

副会長

- 渋澤 健 GSG国内諮問委員会 委員長
- 長谷川 知子 日本経済団体連合会 常務理事
- 安地 和之 全国銀行協会 企画委員長

- 三井住友FG グループCSuO 高梨 雅之
- 常陽銀行 取締役常務執行役員 小野 利彦
- 第一生命保険 常務執行役員 重本 和之
- 野村ホールディングス CSuO兼情報開示担当 岸田吉史
- 日本ベンチャーキャピタル協会会長 田島 聡一
- 政府系金融機関（調整中）
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

アドバイザー委員会/グローバルアドバイザーパネル/オーガナイズングデスク/業務委託先

アドバイザー委員会

※敬称略・五十音順

- 国内の有識者を中心とし、地域課題を含むコンソーシアムの運営状況等に助言を行う。
- 年1回、1時間程度でオンライン開催。参加者は諮問委員会の委員長および委員。
- 委員長：安間 匡明 PwCサステナビリティ合同会社執行役員常務
- 江夏 あかね 野村資本市場研究所 野村サステナビリティ研究センター長
- (地域金融有識者)
- 景山 綾子 UNDPサステナブル・ファイナンス・ハブ シニアエキスパート
- (地域課題解決有識者)
- (財団)
- 山本 晃久 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 パートナー

グローバルアドバイザーパネル

- 海外での取り組みやグローバル動向について学ぶとともに、日本における活動の方向性についてディスカッションを行う。
- 海外有識者を数名ずつ招き、オンラインで都度開催。日本側は都度参加希望者を募る。

グローバルアドバイザーパネル企画座長 (英名: Global Advisory Panel Planning Committee Co-Chair)
: リアルテックホールディングス 藤井 昭剛 ヴィルヘルム、GLIN Impact Capital 中村 将人

ヒアリング先: 国際機関・ネットワーク、海外有識者・実務担当者等

オーガナイズングデスク

- 分科会に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線感で民間の議論を喚起

GSG国内諮問委員会

事務局 業務委託先

- 会議運営、イベント運営、ホームページ作成等

EY 新日本有限責任監査法人

コンソーシアムの会員の状況について

- インパクトコンソーシアム設立発起会合（11月28日）からこれまでの間に、企業、金融機関、研究者等から、会員申込みがあり、**発起人等を含めた会員等全体で、計289の団体等**が参加している。（4月2日現在）
- 分科会メンバーの公募を行ったところ、**計184の団体・個人から応募**があり、集中的に議論を行うディスカッションメンバーは、想定よりも多くの応募があった。ディスカッションメンバーは専門領域等のバランスを加味し一定数としながらも、応募いただいた方には次年度や別の場面等において議論に参加いただけるよう、運営上の工夫を行う。

会員申し込みの状況

※4月2日時点。カッコ内の数字は2月19日時点
※同一主体から重複して申込があった場合は重複を除いて集計

- 事業会社 … 76（47）（スタートアップや地域企業が大宗を占める）
- 金融機関等 … 94（41）（銀行、保険会社、証券会社、資産運用会社等）
- 支援機関等 … 59（37）（シンクタンク、財団、非営利活動法人を含む）
- 業界団体 … 10（8）
- その他自治体、大学等 … 12（3）
- 個人 … 34（20）

分科会の応募状況

※4月2日時点。

	1. データ・指標	2. 市場調査・形成	3. 地域・実践	4. 官民連携促進
ディスカッションメンバー	42	32	54	-
メンバー	59	46	69	71

分科会 1 データ・指標分科会

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、事例の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 当面は、企業・投資家が資金調達・投資、その後の対話に活用出来る実践的なインパクトデータが不足・不明瞭である点が広く指摘されていることを踏まえ、投資で実際に活用されたデータとケースを集約する**国際的なデータベースとの接続も含め、日本固有のデータ・指標も結合したデータベースの整備・運用等に向け、議論を進める。**

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事 今田 克司
東京大学大学院経済学研究科教授 山口 慎太郎
- 副座長：みずほフィナンシャルグループサステナブルビジネス部副部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー：アセットオーナー、アセットマネージャー、インパクトファンド、スタートアップ企業、上場企業、EBPM等のデータ専門家、支援機関等を中心に募集

議論のイメージ

※他分科会におけるデータ・指標の議論も取り込みつつ議論

1. インパクト・マネジメントの意義とデータ・指標、分科会の議論のあり方
インパクトデータや指標を整理するにあたり、これを効果的に利活用するインパクト・マネジメントの必要性や意義について確認し、**分科会の方向性を議論**
2. データ・指標の整備状況、今後の整備に向けた論点整理
インパクト投資に係る**国内外のデータ・指標やプラットフォームの状況・内容等を整理し、論点を整理**
3. 日本のインパクト投資に必要なデータ・指標の整理
日本の環境・社会課題を踏まえ、**改善を図っていくべきインパクト投資のデータ・指標の領域を議論**
4. 今後整備すべきデータ・指標のあり方の整理
今後創意工夫や社会実装等が期待される事業も踏まえて、メンバーへの幅広い意見聴取を行いながら、**整備すべきデータ・指標や望ましいインフラのあり方を議論（予算等は、別途検討）**

分科会 2 市場調査・形成分科会

概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 初年度は、特に**投資実務の基本的考え方が定まっておらず議論が重要との指摘の大きい上場市場**に着目し、投資の際の事業の特定、企業と投資家の対話等の課題に関する議論を行い、**実務者も容易に理解できる論点ごとの簡潔な「上場市場におけるインパクト投資の要点」を発信**

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：フロンシス・パートナーズ 代表取締役 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹
インパクト・キャピタル 代表取締役 黄春梅
- ディスカッションメンバー：アセットオーナー、アセットマネージャー、上場企業や上場を目指す企業、市場インフラ関係者、研究機関等を中心に募集

議論のイメージ

1. 上場市場におけるインパクト投資の意義
インパクト投資に係るガイダンス等を紹介し、**上場市場でのインパクト投資の意義・あり方**について、議論・認識共有
2. 上場市場におけるインパクト投資の全体感
国内外の**上場市場のインパクト投資の実勢や運用手法・プロセス等を議論**し、上場市場のインパクト投資における課題について議論し、全体感を整理
3. 上場市場における実践上の課題
投資・事業の経験者等からのヒアリング等を踏まえて、上場企業がインパクトを追求・評価・開示する際の課題感や、投資家が開示内容を理解し、企業と対話する際の課題感を共有
4. 具体的な論点
融資や非上場市場と異なるエンゲージメントのあり方、上場市場の特性を踏まえた投資のあり方、**対応すべき課題や議論すべき主体等について幅広く議論**

分科会3 地域・実践分科会（1/2）

概要

- 地域には、潜在的に活用し得る様々な環境・社会的又は人的資源が存在。こうした資源を**活用しつつ地域発で環境・社会課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現していく取組みへの期待は高い。**
- 実際に、足許、様々な**規模、業種で、成長志向等も異なる多様な企業によるインパクトの創出例**が見られつつある一方、地域からインパクトの実現を通じて事業の成長・持続可能性等を実現するには様々な経営・資本戦略等のノウハウが必要で、取組みの実践は決して容易でないと考えられる。
- このため、まずは多様な取組みの浸透・拡大を図るよう、**社会・環境課題の解決の視点を取り入れた地域の価値創造等の取組可能性が多岐にわたる点が理解し易い、関心喚起型の議論・取組みが重要。**課題意識を持ち易い多様な発信を行い、機運醸成とネットワーク構築を支援し、地域への人材・資金の流れを強化していくことで、**環境・社会課題の解決と成長が、様々な工夫の下で相互に補完・強化する好循環の地域発での実現**を目指していく。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：慶應イノベーションイニシアチブ プリンシパル 宜保 友理子、龍谷大学教授 深尾 昌峰
- 副座長：社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子、日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 鈴木 章弘
- ディスカッションメンバー：地域企業、スタートアップ企業、地域金融機関、地域VC、インパクトファンド、支援機関、自治体等が中心

進め方

- 24年4月～25年3月で次頁以降の観点について、複数のゲストスピーカーを招きながら地域ごとの課題や特色を映す多角的な事例の共有・分析
- 各回において、例えば、地域別、セクター別、目指す成長の規模感別、アセットクラス別、主導的な役割を担うプレイヤー別、もしくは、これらの組み合わせ（ある地域における一次産業ビジネス等）など、特定の切り口に焦点を当てて議論を行う
- 各地域から幅広く参加いただくためにオンラインを中心としつ、現地でのフィールドワークや試行的な実践プロジェクトを実施していく
- 身近なインパクト実現の可能性につながる気づきやノウハウを幅広く共有できるよう、地域の企業・金融機関・自治体等が問題意識を持ち易い多様な情報発信を定期的に行う（議論を通じて得られた事例、着眼点、課題など切り口ごとに公表）

⇒インパクト投資の実践に向けた機運の醸成とネットワークの構築

テーマと運営方法

- 第1回運営委員会で提示した「インパクト創出における事業・金融等」と「金融から見る事業のインパクト」を、以下の3つのプロジェクトテーマに具体化し、適宜順番に6～9か月程度で、座長・副座長を2チームに分けて企画作業等を分担しつつ、ディスカッションメンバーは全体として全部のプロジェクトに入ること、順番を整理しかつ議論がばらばらにならないよう運営

事業1：地域におけるインパクトの多様な類型

- 一次産業、福祉・医療、地域コミュニティなどの地域に根差した事業運営でインパクト創造を実現する企業や、脱炭素化や創薬開発などのユニバーサルな課題に地域発で取り組む企業など、多様なインパクトの類型の理解を、地域に存在するインパクトの可能性を引き出すための知見・ノウハウへの気づきにつなげる。

事業2：多様な関係者と協働するノウハウ・仕組み

- 地域開催（分科会としてのフィールドワーク、中小企業庁（※）との共催）で、サステナビリティに関心のある地域の伝統的な企業、20-30年後も地域で事業を営む後継社長などの地域のインパクト創出の潜在的な担い手と、自社の技術を活かし地域の関係者とともにまちづくり等に取り組みたい大企業、地域金融機関など、その取組みを支える内外の関係者が有機的に協働する仕組みを共有する。

※中小企業庁「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業」

金融1：地域の事業創造を支える金融面の支援手法

- デッドによる伝統的な手法、エクイティとの組み合わせによる複合的な支援、ベンチャーデット等の新しい手法の活用方法など、インパクトの創出を支援する金融手法の発見につなげる。また、エクイティ投資の多様な出口や、定量データに留まらず、定性的な情報や分析等も組み合わせた投融資の戦略など、金融面の支援の幅の広がりにつながる発信を行う。

分科会 4 官民連携促進分科会

概要

社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、**特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論**する。具体的には、**両者のマッチングの場の提供とマッチング後の連携を深めるための座組の検討、事例創出等**を目指す。

国や自治体等の行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在。こうした**課題を構造化したうえで提示をし、課題解決に向けた議論を深めていく**。

解決策の検討が深まった課題から、**解決手法の具体化を行い、速やかに実証し、横展開に繋げていく**。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- コアメンバー：地方自治体、インパクトスタートアップを中心に参加予定

議論のイメージ

行政側、スタートアップ側の双方に**ヒアリングやアンケート調査を行って整理された課題について議論**。

具体的には、**行政側、スタートアップ側、加えて双方を繋ぐマッチング等の課題の3点について整理された課題の解決方法に向けて議論を行う**。

(想定される課題例)

1. 行政側の課題 (スタートアップから新たに調達することにハードルがある等)
2. スタートアップ側の課題 (金銭で測れないインパクトを自治体等に示すのが困難である等)
3. 双方のマッチングの課題 (自治体とスタートアップが出会う場や機会が不足している等)

スケジュール

2月27日（火）第1回運営委員会

- ・ 会員の状況、分科会の募集など

2月29日（木）～3月20日（水）

- ・ 分科会の募集

4月10日（水）第2回運営委員会

- ・ 会員・分科会の状況、組織・規約等の方針など

5月上旬 第3回運営委員会（書面開催。以下、委員の「確認」後公表）

- ・ 総会の議案（会長、副会長、運営委員、規約）
- ・ コンソーシアム会員リスト

5月14日（火）10:00-10:30 第1回総会

- ・ 「インパクトフォーラム」を併せて開催

※同週に行われる SIMI・SIIF「Social Impact Day2024」、東京都「SusHi Tech Tokyo 2024」とも相互に協働して開催

※新規開設したインパクトコンソーシアム特設ウェブサイトにて順次情報を公開予定
(<https://impact-consortium.fsa.go.jp/>)